

1月28日

司祭教会博士トマス・アクィナス

Thomas Aquinas

(1225 頃～1274.3.7)

～「神学大全」の著者～

イタリアのスコラ哲学者であるアクィナスは、南イタリアの貴族ロッカセッカ城主の子として生まれました。モンテ・カッシーノ修道院で初等教育を受けた後、ナポリ大学で学び、アリストテレス哲学に出会います。また同じころ、托鉢修道会のひとつであるドミニコ会に入ることを決めますが、母と兄弟は猛反対します。そしてアクィナスはパリに向かう途中に、力づくで家族に連れ戻され、城の中に閉じ込められてしまいます。さらに家族はあらゆる手段を使って、彼の決心を揺るがそうと試みます。

あるときは彼が閉じ込められている部屋に女性を入れて誘惑しようとしたが、彼は暖炉の薪を振りかざし、女性を追い出しました。

また別の時には彼の姉妹たちが説得しようとした。しかし逆にアクィナスから感化を受けてしまい、修道院に入った人もいれば、別の姉妹は籠を使って彼を城から逃がしてしまいました。彼はその後、パリやケルンで学んでいきます。

1256年にアクィナスはパリ大学の神学部教授となり、その神学に対する考え方で学生を魅了していきます。ですが保守的な神学者



「トマス・アクィナス像」

カルロ・クリヴェッリ作

15世紀

たちは彼を革新者として危険視します。

その後、ドミニコ会の神学大学で教授をした後、再びパリ大学に戻りますが、そこでは、大学から修道会員を追放しようとする勢力、保守的な神学派、そして異端的なアリストテレス派という三派がありました。彼はいずれの立場とも論戦をおこなっていきます。

アクィナスは「神学大全」や「対異教徒大全」、そしてアリストテレスの主要著作の注解を書き、学問的活動の中に深い祈りの生活を織り込むことによって戦っていきます。また学問に行き詰ると聖堂に入り、深い祈りの中でその解決を見出しました。あるとき十字架の前で祈っているアクィナスに向かって十字架から「私についてよく書いた。どんな報いを望んでいるか」という声が聞こえましたが、彼は「主よ、あなた以外は何も」と答えたといわれます。

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、司祭教会博士トマス・アクィナスの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン